

県議会通信

第5号

平成23年2月10日

発行者 県議会議員 内野幸喜

発行所 玉名郡長洲町清源寺512

TEL 0968-78-6571 FAX 0968-78-6580

E-mail:k-ucn@nifty.com

URL:<http://www.k-uchino.com>

ご挨拶



県議会議員
内野幸喜

寒さ厳しい折、皆様方におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、県議会議員としての活動も四年目を迎え、与えられた任期も残すところ僅かとなりました。この県議会通信も、今回で第五号となりました。

当初、見る事、聞く事、やる事が初めての連続で、戸惑う事もありました。しかし、多くの皆様方の力強く、心温まるご支援とご理解のもと、今日まで充実した議会活動を送らせて頂いております。改めて、心からのお礼を申し上げます。

特に、今年度は、厚生常任委員会副委員長として、高齢者福祉、障がい者福祉等の施策充実に力を入れております。また、昨年十一月一日に施行されました「熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例」の制定にあたっては、条例策定検討委員会の委員として、その策定にも関わらせて頂きました。これまで以上に、各議員の政策立案能力の向上が求められる様になってきている中、大きな自信と収穫になり、この経験を今後の議員活動にも活かしていきたいと考えております。

最後になりますが、地域の皆様方の視点に立った政治活動に努め、愛する玉名地域のために、全力を尽くして参ります。今後とも、変わらぬご指導、ご支援を宜しくお願ひ申し上げます。

9月定例会で4度目の一般質問

1 公共関与管理型最終処分場

質問 私は昨年9月にも、現在県が整備に向けた準備を進めている公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場について質問した。この1年間県では①環境影響評価手続の一環となる地質、地下水、大気、交通、騒音等の把握のための現地調査、環境アセス準備書策定等、②建設候補地を抱える行政区、近隣の行政区、南関町議会、和水町議会等、10回を超える住民説明会等の開催、③安全、安心な施設構造の検討等、を行い地元住民の方々の不安、心配の払拭に力点を置いて取り組んできているが、残念ながら不安や心配は払拭されてはおらず、今年の7月から9月にかけて、菊池川漁業協同組合、大浜漁業協同組合、滑石漁業協同組合からの建設反対の趣意書の提出や建設中止に関する陳情、また、南関町長、和水町長等による申し入れや陳情もなされている。これらの根底にある不安や心配については、昨年の質問でも述べたが、大きく5つに分類される。①漏水により、生活水の全てを依存する地下水の汚染、②ため池の造成や

地下水集排水による隣接河川流量等への影響、③処理水放流による河川汚染、水田等への影響、④廃棄物運搬車両の増加による道路交通安全への不安、⑤農作物に対する風評被害、さらには遮水シートの安全性に対する不安、施設から排出される粉じん等による環境被害に対する不安などもある。这一年、県が理解促進のための努力をしてきたことは理解しつつも、地元住民の方々が抱いている不安や心配を払拭するだけの具体的な説明や対応策が示されていないと感じる。公共関与管理型最終処分場についての地元住民の方々への思いをどう感じているか、地元住民の方々が抱いている不安や心配を払拭するために、今後どのような取り組みを行っていくのか、知事に尋ねる。

答弁 (知事) 最終処分場については、自然環境や県民の生活環境を守ると同時に、県内産業の健全な発展を促進するために、県が主体的に関与し、その計画から整備、運営までを一環して行う、公共関与型による取り組みを進めている。これまで地元の方々から



さまざまな心配や不安の声が届いており、南関町と和水町からも、直接要望をいただくなど、大変申し訳なく、心苦しく思う。私自身、就任以来思い悩んだ結果、現計画のオープン放流型からクローズド無放流型の施設とすべきではないかと考えた。この施設構造は、屋根のないオープン型と比較して初期投資額は大きく膨らむが、地元の方々の不安におこたえするにはこれしかないと考えるに至った。クローズド無放流型の優位性は、①施設を屋根や外壁で覆うことで、処分場内を雨水から守り、地下水汚染を防ぐことが可能②処理水を放流しないため、河川流域への影響はない③粉じん、悪臭などを施設外部に出さないため、環境被害はない④全国のモデルとなるような安全な施設の建設を実現し、それを対外的にPRすることで風評被害を防ぐことが可能。私は、クローズド無放流型を地元の方々に具体的に示し、心配に対して一つ一つ回答していくことが、地元の要望に応えることと考え、今後とも、地元の御理解を得ることを最優先にして取り組みを進めてまいる。

2 クルーズ客船からの外国人観光客誘致促進

質問 先月27日、上海発の大型クルーズ客船のオプショナルツアー一行が初めて熊本を訪れてから今月22日までの計5回、バス173台、合計6,650人が来熊した。このオプショナルツアーは、イタリアのコスタクルーズ社の企画で、博多港に寄港した客船から、仮上陸許可制度の適用のもと来熊された。これまででは、仮上陸の移動範囲は

入国した港がある県のみに限られていたが、県や関係機関の努力により、初来熊が実現した。九州へ寄港するクルーズ客船の料金は3万数千円程度からで、中国国内で新中間層と呼ばれる年収100万から300万の層の方々を中心に需要が多く、ビザ発行基準の緩和等もあり、今後もさらにふえることが予想される。中国人観光客の高い購買欲に代表される経済効果は大きく、消費が伸び悩む地方経済にあってはとても魅力的で、各県ともその誘致に熱心である。寄港地を持たない本県としては、阿蘇を代表とする雄大な自然、黒川などの幾つもの温泉地、熊本城といった多くの観光地の魅力や、来年3月の九州新幹線全線開業を寄港地からの来熊に活用できる利点を発信するなど、受け入れのためのより戦略的な取り組みが必要である。クルーズ客船による多くの外国人観光客の受け入れは、本県経済のさらなる浮揚につながる今後の重要な施策である。①今回の大型クルーズ客船によるオプショナルツアーが本県に及ぼした効果、②初来熊により浮かび上がってきた課題、③その課題を踏まえた今後の取り組みについて、商工観光労働部長に尋ねる。

答弁 (商工観光労働部長) ①詳細は、熊本商工会議所などの関係者で構成される検討部会で取りまとめる予定、②市街地でのバス駐車場、中国語の通訳、外国語表記など、③クルーズ客船会社へのプロモーション活動の強化及び、外国人観光客受け入れ体制の充実を図る。

3 暴力団排除条例

4 メガソーラー発電施設

質問 昨年6月、蒲島知事特命のプロジェクト、くまもとソーラープロジェクトチームが、部局横断的推進組織として県庁内に設置され、世界に誇れるソーラー関連産業集積の形成や太陽光発電普及率日本一を目標として、①県内事業所、一般家庭への導入促進、②産学官による次世代技術の開発、③利用技術の実証実験等という3本柱のさまざまな取り組みが行われている。民間活力を

導入した大規模プロジェクトであるトステム株式会社有明工場のメガソーラー発電施設は、その利用技術の実証実験等の取り組みのひとつとして、進められている。

このメガソーラー発電施設の完成は来年の1月末、稼働は2月からの予定であり、発電規模は3,750キロワットと、エネルギー業界によるものを除いては国内最大の規模となる。完成後のこの施設を、太陽光普及啓発の場、環境教育の場、工場見学の場等として利活用する取り組みや事業については、県として積極的に関わり、全国に発信していくべきと考えるが、①このメガソーラー発電施設について、どのような位置づけととらえているか、②その位置づけに基づき、県としてどのような役割を担っていくつもりか、商工観光労働部長に尋ねる。

答弁（商工観光労働部長） ①ソーラー先進県を目指す本県のシンボル的な存在、また、工場での生産開始は、地元長洲町を中心に大きな経済波及効果が期待されるとともに、メガソーラーが環境教育や観光の拠点として、地域活性化につながる重要な集客施設になるものと期待。②県は長洲町とともに、太陽光発電に関する普及啓発を行う。

5 一般県道和仁菊水線と主要地方道玉名立花線の道路整備（要望）

6 九州新幹線全線開業後における並行在来線の利便性確保について（要望）

来年春に全線開業が決定している九州新幹線は、本県にとってもビッグイベントである。知事の言葉をかりれば、本県にとって100年に1度のビッグチャンスということになる。特に、関西圏が日帰り圏となることから、観光・ビジネス面での可能性が大きく広がり、本県にとって決して言い過ぎた表現ではない。現在、日に日に歓迎ムードが県内全体へと広がっている。

しかし、こうした歓迎ムードの中で、私自身一抹の不安を感じている。それは、巷間言われている全線開業後の特急電車の廃止から来る不安だ。私自身、新幹線全線開業の歓迎ムードに決して水を差しているものでは

ない。しかし、地域の声として、存続を望む声が多いことも事実だ。

特に、長洲町では、これまで長洲駅に上下線合わせ30本の特急電車が停車していたものが突然なくなるとなれば、そうした声が上がってくるのも当然だ。実際に、特急電車を利用して博多駅方面へと通勤通学をされている方、特急電車を利用して博多駅方面から立地企業へと出張してこられる方等多く、2次アクセスの整備がいまだ十分でない中、上り線の新幹線と並行在来線の結節駅が船小屋駅ということを考えると、利便性が著しく低下する。

こうした地域の事情も踏まえ、これまで2度にわたってJR九州本社へと要望に行っている。1度目が、6月22日に、自民党荒玉県議団4名で、2度目が、8月25日に、熊本市、玉名市、荒尾市、玉東町、長洲町の3市2町の要望活動に同行する形で、同じく荒玉県議団4名で行っている。確かに、特急電車の廃止は、新幹線の開業効果を最大限に生かすためにはやむを得ないという意見があることも承知している。しかし、九州新幹線の開業効果を最大限に生かすことと同時に、これまで在来線を利用していた方々の利便性を確保することも必要だし、決して矛盾しているとは思わない。

県には、これまで同様、並行在来線の利便性確保に向けて、JR九州へ引き続きの働きかけとそして地元自治体が要望する際の力強い後押し、の2点をお願いしたい。

↓

平成22年12月17日、特急電車の存続と快速電車の新規運行が決定しました！



平成22年11月1日より

「熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例」が施行されました

熊本県は、子供たちの虫歯や歯周病などの歯及び口腔疾患の有病率が高い状況にあります。平成20年度の健康診査によると、**1歳6ヶ月児の虫歯有病者率は4.3%**で、都道府県順位で47位、つまり、ワースト1位となっています。また、**3歳児の虫歯有病者率は30.2%**と全国平均を上回り、全国で31位という状況です。さらに、平成21年度学校保健統計調査によると、12歳児、**中学1年生の1人当たりの虫**

歯本数は2.6本と、全国平均1.4本に比べ1.2本も多く、**全国ワースト2位**です。

この条例により、県民の皆様の歯及び口腔のより一層の健康づくりを推進し、県民の皆様が生涯を通して益々健康な生活を送ることができるような様々な取り組みを進め、大きな成果に繋がるものと確信しております。

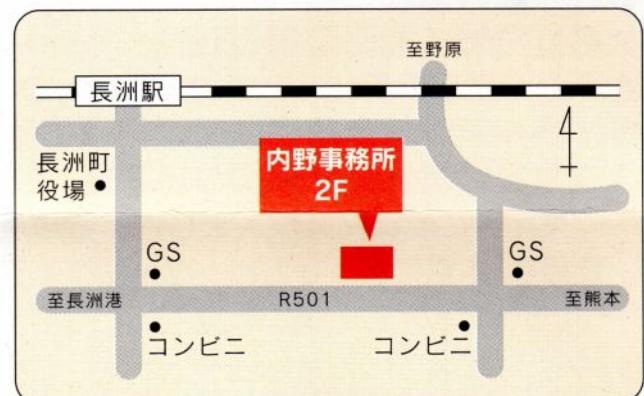
お知らせ

3月8日(火)の10:00より、5回目の一般質問を行います。現在、熊本県議会では、インターネットライブ中継により視聴ができるようになっています。

創刊号



**お読みでない方は
お知らせ下さい。
直ぐにお届けします！**



三月十一日は九州新幹線全線開業の日。当日は、県内各地で様々な開業イベントが実施される。既に、幾つかのプレイベンも開催されている。それだけ期待が大きいという事。熊本は過去に二つの大きなチャンスを逃し、発展を遅らせてしまったとの事。一つは、当時の九州帝国大学が福岡に設置されたといふ事。もう一つが、当時の山陽新幹線の終着駅を熊本駅にできなかつたという事。これは、地元紙の方から聞いた話。うなづける話だ。今回も終着駅は熊本駅ではないが、新幹線の開業効果は大きいはず。蒲島知事の言葉を借りれば「百年に一度のビッグチャンス！」。その蒲島知事だが、スザンヌ宣伝部長とともに吉本新喜劇に出演し、「ズツコケ」まで披露。知事の並々ならぬ意気込みを感じた。きっと関西の方々も好意的に受け止めたのではないか。私も「ズツコケ」とまではいかなくとも、様々な機会に熊本をアピールしていきたい。

編集後記